

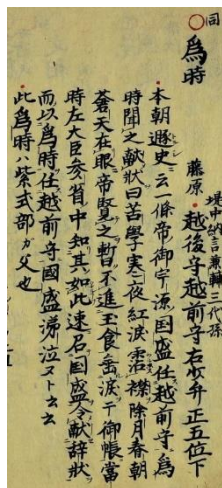
## 松平文庫テーマ展 47「松平文庫にのこる紫式部の足跡」開催要項

1. 会期：令和5年12月22日（金）～令和6年2月21日（水）  
休館日：毎週月曜日（1/8、2/12を除く）、年末年始（12月29日～1月3日）、  
1月9・25日、2月13日
2. 場所：福井県文書館閲覧室（観覧無料）
3. 趣旨

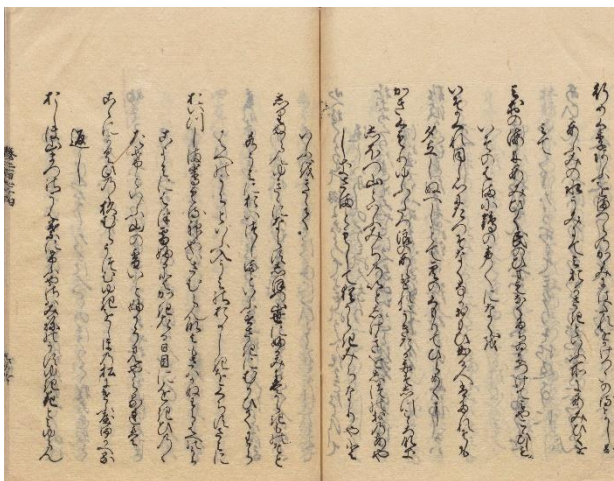
紫式部は、20代のころ、父・藤原為時の越前国司赴任に同行し、越前国に滞在しました。越前下向は、紫式部が洛外に出て、京とは異なる風物に触れた数少ない経験であり、いくつかの和歌を遺しています。この経験は後に著した「源氏物語」にも影響を与えたのかもしれませんが。展示では、紫式部の越前下向の足跡を残された資料からたどります。また、「源氏物語」は後世の文学に影響を与えており、それら文学作品を展示します。

### 4. 主な展示資料

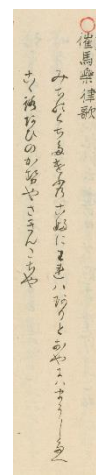
- ・「越前国主記」……「為時は紫式部の父也」の記述と為時の越前守決定の逸話を収録
- ・「群書類従」……巻274「紫式部集」（紫式部の和歌）を収録
- ・「新古今和歌集」……紫式部が琵琶湖湖上で詠んだ歌を収録
- ・「越前国名蹟考 卷一敦賀郡」…源氏物語「浮舟」帖に出る、催馬楽を収録



「越前国主記」



「群書類従（紫式部集）」



「越前国名蹟考  
卷一敦賀郡」

### 5. 関連イベント

- ・令和6年1月21日（日）15:00～16:00 ゆるっトーク

「源氏物語」をのこした、紫式部とはどのような人だったのでしょうか？紫式部は、父の越前国司赴任に同行するなかで、道中の風物を詠んだ和歌や、夫となる藤原宣孝との和歌のやり取りをしています。それらを読み解いて、紫式部の人物像にせまっています。